

株式会社富士ロジテックホールディングスの河野勝さん(左)と日本レコードマネジメント株式会社の小山内文浩さん。

株式会社 富士ロジテック ホールディングス

業種：物流

新サービスの概要：紙書類のスキャンによるデータ化、専用クラウドと文書管理システムによるデータ管理、高セキュリティ倉庫での書類保管、データ活用コンサルティング

書類のデータ化から紙原本の保管・廃棄まで。 倉庫会社の新サービス「電子倉庫」が始動

「fiシリーズ」で書類をスキャンし高品質なデータを生成、専用クラウドで管理・活用

倉庫と物流の有名企業、株式会社富士ロジテックホールディングス（東京都千代田区）では書類など紙情報のデータ化に対するニーズの高まりを受けて、書類をスキャンしてデータ化する新たなサービス（通称「電子倉庫」）を立ち上げました。「fiシリーズ」による高品質PDFの生成に加え、スキャン後の書類の倉庫保管、文書管理専門会社の協力によるデータ活用コンサルティングなど、従来のBPOにはない包括的なサービス内容が注目されます。同社の電子化センターを訪ね、詳しいお話をうかがいました。

書類をスキャンしてデータ化し、紙とデータの双方を一元的に管理・活用する

——株式会社富士ロジテックホールディングス 首都圏事業部 倉庫所長の河野勝さんと、日本レコードマネジメント株式会社 RM事業本部 RMS事業部 マネージャの小山内文浩さんにうかがいます。このたび富士ロジテックホールディングス（以下、富士ロジテック）が立ち上げた書類のデータ化サービス、通称「電子倉庫」の概要をお聞かせください。

河野さん 紙の書類をスキャンしてデータ化し、万全のセキュリティのもとで管理すると同時に、お客様ご自身にデータを随時活用していただけるようにするのが「電子倉庫」です。最大の特長は「データと紙を一元管理できる」ことです。

従来当社が行ってきた紙の書類の保管サービスでは、定期便などお客様の書類をお預かりするところから始まり、倉庫のプロならではの厳重な保管、お客様が書類の閲覧を希望されるときは箱単位での配送、保管期限の切れた書類の溶解処理による完全な廃棄に至るまで、書類のライフサイクルを一貫して引き受けてきました。電子倉庫は、その対象をデジタルデータにまで広げるものです。

お客様がデータ化を希望する書類を当社

で引き取り、スキャンしてデータ化したあとは、そのデータをお客様が活用できる形で厳重に保管します。それと同時に、データ化した紙の原本も、倉庫でお預かりする、お客様にお返りする、あるいは完全に廃棄するというように、ご希望に応じて取り扱うことができます。

電子倉庫の実現にあたっては、日本レコードマネジメント株式会社（以下、NRM）より、電子化の実績とシステム構築等の知見に基づく技術協力を設計段階から得ています。倉庫のプロである当社が持つ紙の保管技術と、NRMが有する文書管理の技術を活用することで、データ管理と活用のノウハウをお客様に提供していきます。



富士ロジテックでは「電子倉庫」の立ち上げにあたり、A3フラットベッド付きスキャナー「fi-7700」（左）とA3コンパクトスキャナー「fi-7480」（右）を2台ずつ導入しています。

——電子倉庫のサービス内容を技術的な側面からお聞かせください。

河野さん 紙の書類をスキャンしてデータ化する場合、これまではDVDなどのメディアに記録してお客様に納入する形が比較的多かったと思いますが、電子情報を十全に活用するためにはメディアに収めるよりもクラウドなどへの保管が有利です。そこで電子倉庫では、セミパブリックな位置づけの専用クラウドを立ち上げ、文書管理のシステムを入れて完全なセキュリティのもとでデータを管理します。この専用クラウドは、最終的にお客様ご自身がいつでもデータにア

クセスしてご利用いただけるよう、機能を適宜更新して満足度を高めていく予定です。

小山内さん また、電子倉庫では今まさに求められるサービスとして、電子帳簿保存法（電帳法）とインボイス制度への対応も行います。税務署の監査にいつでも応じられるよう、PDF化するときにタイムスタンプを打ち、会計経理的な情報を個別のエリアで管理して、税務署がそこを見れば監査のための情報を確認できるようにしています。これは文書管理システムならではの仕組みです。

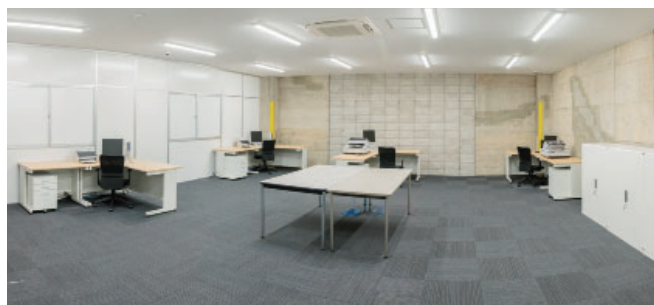
品質が高く活用しやすいデータを提供するために「fiシリーズ」を選択

——当サービス専用の電子化センターに、A3フラットベッド付きスキャナー「fi-7700」とA3コンパクトスキャナー「fi-7480」を各2台導入されています。「fiシリーズ」選択の理由をお聞かせください。

小山内さん データの品質を担保するためです。「fiシリーズ」は信頼性が高く、高品質なイメージデータの生成が可能です。フラットベッド付きの「fi-7700」は「古文書」と呼ばれる古い書類や、割印方式の契約書などをスキャンするために導入したものです。

電子倉庫では書類をただデータ化すればよいということではなく、あとで活用するときに問題が発生しない、高品質のデータにしてお客様にお渡しします。それを実現するためにNRMではこれまで相当数の「fiシリーズ」を導入してきており、このたびの電子倉庫事

業の構築と今後のNRMとしての利用を行うにあたって、「fiシリーズ」を選択することに迷いはありませんでした。



高セキュリティ環境下にある富士ロジックの電子化センター。



「fi-7700」はA3サイズまでの原稿を、カバーを開けたままスキャンできるフラットベッドスキャナーと、A3原稿をストレートパスで読み取るADFを備えています。



「fi-7480」はA3サイズ対応でありながらデスクサイドにも置けるコンパクトサイズを実現したスキャナーです。A4横原稿を80枚・160面/分の高速で読み取ります。

強固なセキュリティ下でデータと書類を保管、データ活用のコンサルティングも提供

——電子倉庫サービスの特長と意義をより詳しくご説明ください。

河野さん お客様が書類をデータ化したいとき、当社ならば定期便や大型車によるお引き取りが可能です。書類をお預かりする倉庫は24時間の機械警備を行っているほか、機密書類をお預かりするエリアはセキュリティフェンスを完備しており、認証を受けなければ入り入ることができません。この強固なセキュリティは書類をお預かりする場合の最大のポイントといえます。またデータ管理に関しても、NRMの技術協力によって万全のセキュリティを実現しています。

小山内さん 電子倉庫のネットワークは日本国内だけで完結してい

ます。データは国内のデータセンターに送られ、24時間監視体制下で管理されます。ワールドワイドのクラウドサービスとは異なり、データが海外に出ることがありません。

さらに電子倉庫では、NRMが長年培ってきた文書管理のノウハウに基づくコンサルティングも承っています。データ整理と活用のルールをお客様とともにお作りすることができます。

——電子倉庫サービスはいつからスタートするのでしょうか。

河野さん ネットワークや文書管理システムの準備が2023年9月中旬に整うので、それ以降すぐにサービスの提供を開始する予定です。

